インターネットを使った調べ学習

― ４年国語科「伝え合う」ということ ―

岐阜県下呂市立東第一小学校　教諭　中島　美紀子
nakashimamikiko@seiryu.ne.jp

キーワード：小学校、４年生、国語科、インターネット

１．はじめに

「『伝え合う』ということ」という国語科の教材では、視覚障がいのある人が点字を通して「伝え合い、わかり合う」資料が提示されている。自分の知らない世界に対する知的好奇心が強くなるこの時期に、目や耳に障がいのある方々について理解し「伝え合い、わかり合う」にはいろいろな方法があることに気づき、自らが得た情報を聞き手にわかりやすく伝えることを学ぶ単元である。

本校児童は、山間へき地にあり公共機関等で点字や点字ブロックが使われている場面を実際に見る機会が少なく、点字が使われている画像は視覚的情報となる。また、一人一人の追求課題を図書館の本だけでは調べる内容に限りがある。そこで、インターネットを活用してさらに知りたい情報を集める。発表するときには、視覚資料（画像等）も活用していく。課題追究に豊富な情報を入手させることで、主体的に学習に向かい言語能力を高める活動を行える授業の実践をめざした。

２．具体的な手だて

（１）情報を多く得ることで、伝えたい内容をより豊かにする。（文章表現力を高める）

・課題づくりにおいて、一人一人が決めた課題について、図書館の本やインターネットを利用して調べる。＜図書、パソコン、ノート＞

・発表原稿づくりにおいて、ノートメモを基に調べてわかったことから一番知らせたいことを選び、話し始めと結びを考え、全体を組み立てる。また必要な資料を準備する。＜ノート、発表原稿＞

（２）情報や機器を活用して、よりわかりやすく伝える。（音声表現力を高め、自信を高める）

・発表練習・発表において、話し手は聞き手によく伝わるような発表のしかたを工夫する。聞き手は話の中心に気をつけて聞く。＜発表原稿、ビデオ、パソコン、プロジェクター、スクリーン、アドバイスカード＞

３．授業の内容

３．１ 調べ学習

調べ学習は中間発表を挟んで前半は図書館の本を用い、後半はインターネットを利用した。自らの課題を明確に捉えている児童は中間発表までの調べ学習の内容がそれに活かされていた。しかし、大まかな捉えで調べ始めた児童は本を抜粋しているに過ぎないものになり、引用した語彙についての情報も少なかった。自らの課題を焦点化し、さらに情報を集める必要があった。そこで、曖昧な児童には前半の内容から自分が伝いたいことが何なのかを明確にさせ、さらに追求したい事柄を明らかにした。後半の調べ学習はそれぞれ調べる事柄が具体化しているため、言葉を入力して検索をかけることは４年生にとって抵抗感が少ない。しかし、児童向けのページでない場合もあり、９人の個人追求課題について事前に、どのような内容がインターネットで調べることができるかを把握しておく。どのサイトのどの部分が発表に役立つかをピックアップしておくと、時間内で一人一人に有効な助言ができる。

後半も図書のみを利用した児童は１名であった。他の児童はもっと内容を深めるための情報をインターネットから得た。多くのサイトを閲覧するうちに伝えたいことがより鮮明になる効果も生じた。また、メッセージを手話で伝えるために動画画像によって手話を主体的に学ぶ姿も見られた。

＜９人の児童のテーマ＞

①聴覚障害・視覚障害：図書のみ
②手話と口話・読話～長所と短所：図書→インターネット
③手話が表すもの～名詞・動詞・形容詞：図書→インターネット
④手話には助詞がない～助詞に代わる動作：図書→インターネット
⑤手話で数字を表す・点字の仕組み：図書→インターネット
⑥手話で話そう（動画画像「手話辞典」）：図書→インターネット
⑦手話で歌おう（動画画像）：図書→インターネット
⑧盲導犬を育てる（静止画像「盲導犬の訓練と仕事」）：図書→インターネット
⑨視覚障害者に対するバリアフリー～点字が使われている場所・物（静止画像「点字ブロック・シャンプーのきざみ・紙パック容器・紙幣の凹凸」）：図書→インターネット

写真１ インターネット活用画面

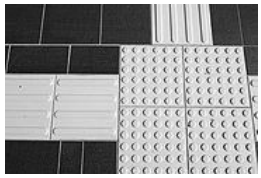

写真２ インターネット画像

３．２ 発表原稿づくり

調べてわかったことから一番知らせたいことを選ぶ。話の中心を決めたら話し始めと結びを考え、選んだ情報を順序立ててわかりやすく伝わるように全体の組み立てを考えて原稿づくりをする。そのときに調べたことを単に伝えるだけにならないように自分の考えを結びに加えることとした。また、どの資料をどこでどのような方法で提示するかも考えることとした。特に音声言語だけでは聞き手に伝わらない内容については、実物やインターネットから取り込んだ画像によってわかりやすく伝えさせた。発表に必要な資料は個人フォルダに保存しパワーポイント等で提示させた。この保存の時には、著作権を意識させるためにも出典を明記させる。インターネットを活用することによって、文字情報だけでなく盲導犬の訓練の様子や点字ブロックなど､視覚的にも聞き手に伝わる画像を容易に入手することができた。

児童は豊富な情報から伝えたいことに添う内容を選ぶために、取捨選択する作業によって児童自身が伝えたいことをより明確に捉えていく様子が伺えた。

写真３ インターネット画像

３．３ 発　表

（１）発表会

クラスの友達に自分の考えをわかりやすく筋道立てて話すことを目標に、調べたことをもとに発表会を行った。調べた内容を伝え、結びにおいて自分の考えを述べる。話し手は聞き手によく伝わるように発表をし、聞き手は話の中心に気をつけて聞く。

発表者は４００字余りの原稿を暗記し、できるだけ聞き手に語るように話した。聞き手はアドバイスカードに話し手の話す速さ・声の大きさ・話し方等を評価しながら、簡単なコメントを書いた。図書での調べ学習後の中間発表とインターネット後の発表会を行った。

写真４ 活用画面

（２）ビデオ録画による自己評価

中間発表での様子をビデオで各自に確認させたため、目線や話す速さ・声量等に気をつけた発表となってきた。また、音声言語だけでは伝わりにくかった内容はスクリーンに画像を示すことで聞き手の理解を促すことにした。

（３）相互評価

当日は４５分間で９人の発表と、聞き手側にそれぞれのアドバイスカードの記述をさせることで終わり、後日評価結果を発表したが、それぞれの発表の後に感想を交流する場面を取り入れるとよかった。

（４）学習発表会で地域や保護者に向けて発表

各自が調べた原稿をもとに２０分間の発表原稿にまとめ､｢伝え合い､わかり合う｣ことについて考え深めたことを、さらに地域の人々や保護者に向けて発表した。学習の成果を発表するとともに、大人でも周知していない内容をインターネットによって調べているため、情報の共有化が図れると考えた。児童は中間発表・発表会での反省を活かし練習に励んだ。学習発表会では、インターネットで取り入れた画像等を指し示すなどして、どの子も体育館に響く声で発表した。発表内容への自信と発表後の達成感が子どもたちの姿に感じ取れた。

４．成果と課題

（１）情報を多く得ることで、伝えたい内容をより豊かにする。（文章表現力を高める）

- ✧ インターネットでは図書館の蔵書だけでは十分に得られない情報も入手が可能なため､多くの情報から目的に合わせて使いたい情報を取捨選択し、言語化する表現力が向上した。一人では判断のできない児童に対しては、事前に教師が情報を収集することで適時に支援することができた。
- ✧ 情報を収集・活用して伝えたいことを文章化し、確実に相手に伝えていく能力が高まってきた。また、学習に主体的に向かい、文章量とその内容が実践を重ねるごとに豊かになってきた。平均文章量（382.5→448.8→746.7）

（２）情報や機器を活用して、よりわかりやすく伝える。（音声表現力を高め、自信を高める）

- ✧ インターネット上の画像や動画も各自の発表内容を深めるのに役立った。メッセージを手話で話そうとする児童は、容易に手話に変換できない言葉をインターネットで手話辞典の動画を見て繰り返し練習することができた。身近に、手話にくわしい人がいない場合は、さっと利用できるサイトである。
- ✧ ネット上の画像はパワーポイントにそのまま使え、発表で消えていく音声言語をイメージ化するのに役立った。
- ✧ 発表練習では、各自がパソコンでパワーポイントを操作し、画像に合わせて原稿の暗記を確かめていった。機器の扱いにも抵抗感が少なくなった。
- ✧ 相互評価・自己評価を活かして、さらに発表では調べたことを聞き手に情報伝達する価値を見いだし、はっきりとした口調と聞き取りやすい速さ・声量でクラスの仲間や地域・保護者に話すことができた。

（３）今後の課題

インターネット情報は子ども向けに書かれていない場合が多く、読めない漢字についてはその都度、質問に対応し、語句の説明解釈も必要に応じて行う等、調べ学習の時間は９人の学級でも対応に追われてしまう。子ども向けサイトでの情報がさらに多様化するとよい。